

自動認識システム大賞「大賞」

テーマ

RFタグを利用した航空旅客への 情報提供・位置情報管理

技術分野：RFID、2次元シンボル

申請会社：株式会社デンソーウェーブ

共同申請会社：中部国際空港株式会社

株式会社日本航空インターナショナル

ユーザー名：株式会社日本航空インターナショナル

システムの概要

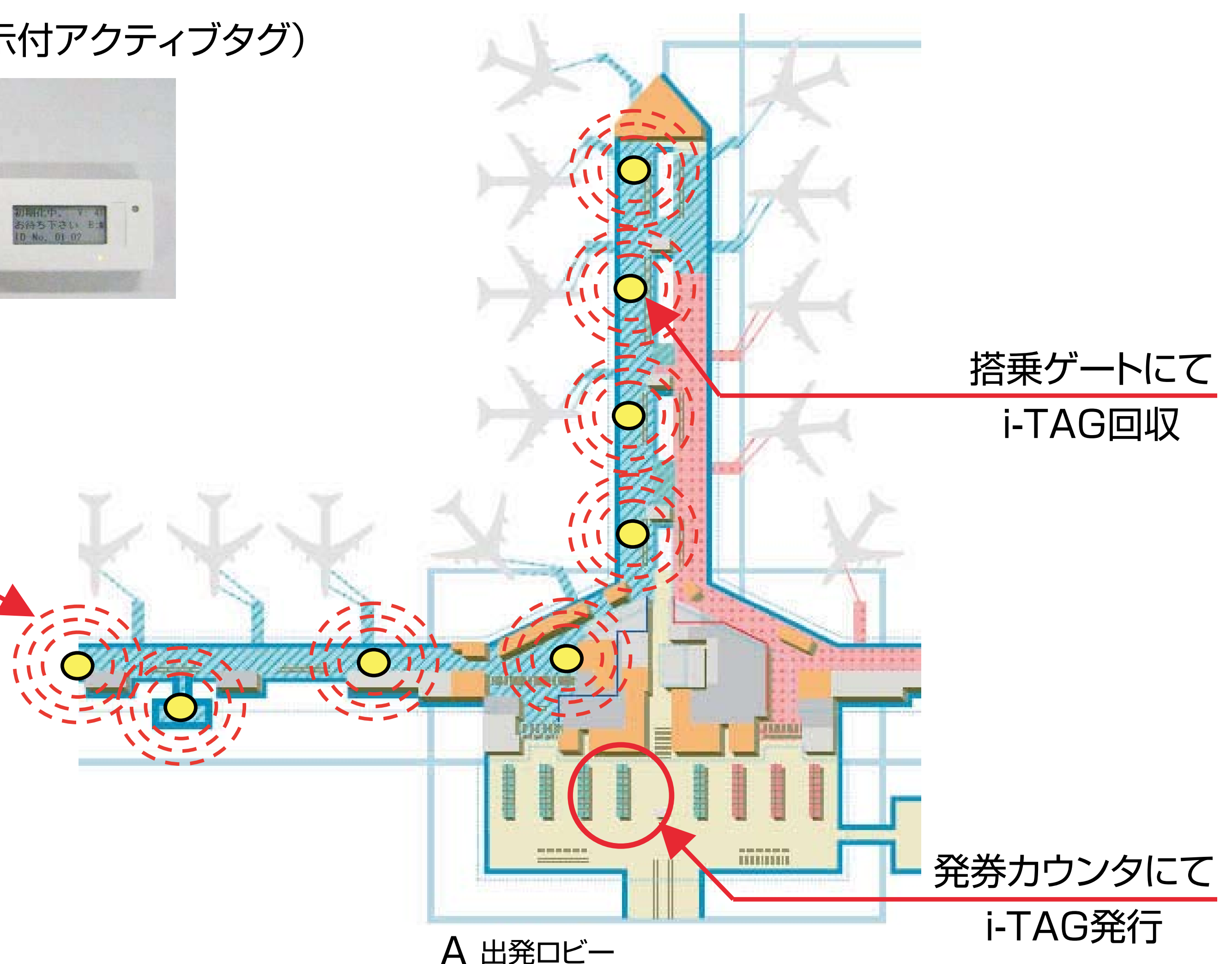
国際線搭乗旅客に対してRFタグ(表示付アクティブタグ)を発行し、空港ビル内の主要箇所(セキュリティ・出国・免税店・ラウンジ・ゲート等)にて位置情報を取得し、位置に応じた搭乗案内を行うことにより、搭乗旅客の乗り遅れによる航空機出発の遅延を防止する。

i-TAG (Information Tag : 表示付アクティブタグ)



i-TAG 基地局アンテナ
2.45GHz

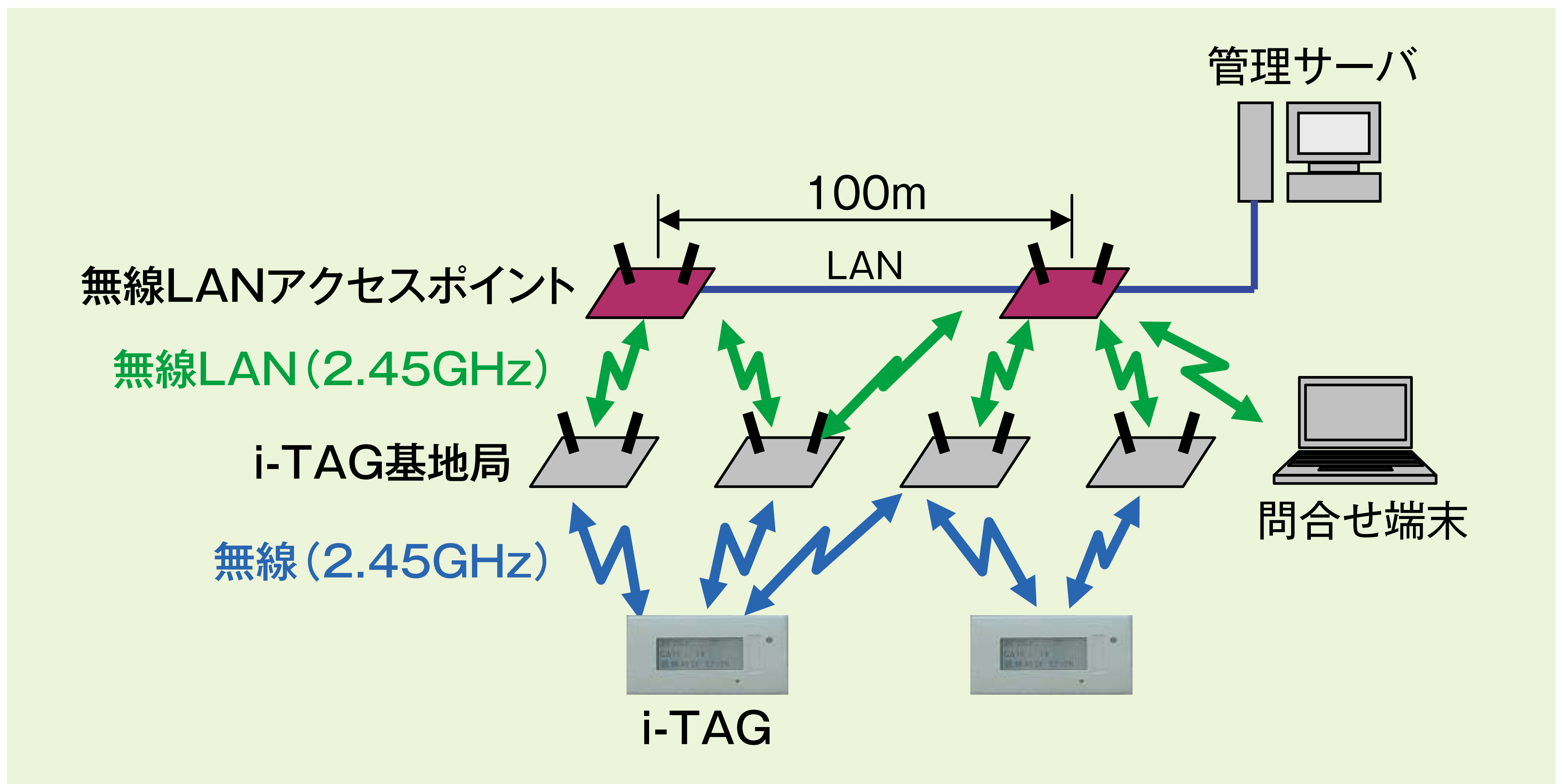
- セキュリティ
- 日本航空ラウンジ
- 免税売店
- 搭乗ゲート etc



システムの特徴

●搭乗旅客の位置管理・誘導による出発遅延防止

- ・ i-TAG 基地局の通信エリア内にある i-TAG の固有 ID を読み取ることにより、搭乗客がどのエリアにいるかを把握できる
- ・ 個々の i-TAG に対して、個別に必要なメッセージが送れる



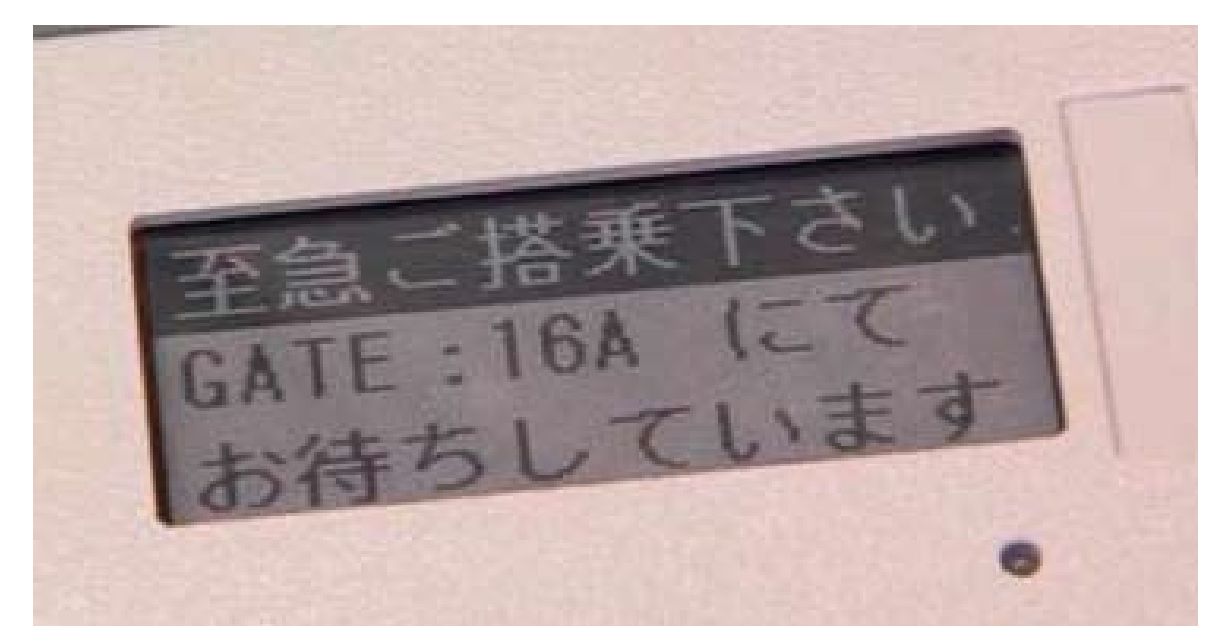
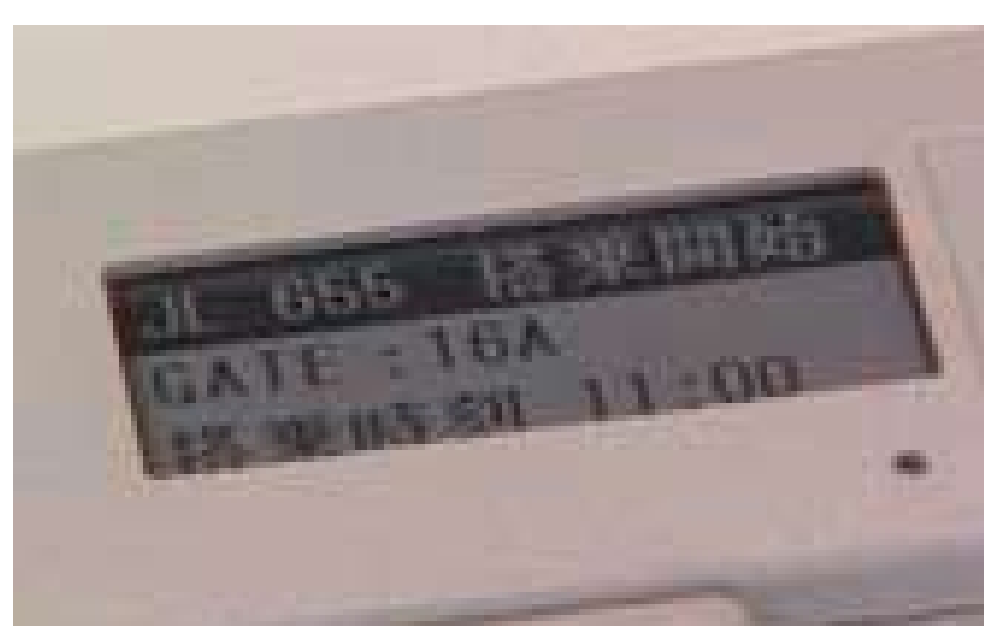
●搭乗客に出発までの安心感を提供

- ・ 搭乗便についての搭乗時刻変更や搭乗ゲート変更などの情報が i-TAG に表示されるため、案内放送の聞き逃し等の不安が解消される
- ・ 日本航空スタッフが搭乗客の所在を確認でき、必要に応じて適切な案内や手続きをしてもらえるため、乗り遅れる心配が無い



●分かりやすい案内表示

- ・ 低消費電力の電子ペーパーにより、必要なメッセージを表示
- ・ 新たなメッセージを受信した場合、LED ランプとブザー音で知らせる



システムの効果

出発遅延による時間的・経済的損失の回避

- ◆余分な航空機燃料消費の削減 … CO₂ 削減効果 12,000トン / 年 (5,000 便 / 年 × 15 分の遅延を防止した場合の試算)
- ◆空港運用設備の再計画作業(駐機スポットの変更など)の回避
- ◆航空機運航計画の見直し作業(航空機材変更など)の回避
- ◆未搭乗客搜索要員の削減
- ◆搭乗旅客(お客様)に対する時間損失の防止

利便性の向上

- ◆探しているお客様がどこのエリアにいるか分かる
- ◆搭乗ゲートの変更などの情報を確実にお客様に伝えられる

運用フロー

